



みかねてお手伝いをして下さる方もある。
一時から準備に入り二時前から販売が始ま
って夕方六時までバザー店は大繁盛。

あれほどまぶしく照り輝いていた太陽も長
い影をひいて、チョウチンの明かりがゆらぐ。
ほっとして見わたすと中央の舞台では、サン
フランシスコから親善使節として来日された
セレスティンターナショナルバレエ団の踊り

が始まっていた。そう言えば、セレスティの

達が開演前にサロン店で買い物をして下さっ
たのであろうと思われる区役所発行の金券が、
サロンの会計に何枚か入っていたのを思いだ

した。何を求められたのかは分からないが、
寄贈下さった家からサロンへ、サロンからサ
ンフランシスコへとその品物が動いて行くこ
とを思うと楽しくなってくる。他の品物も遠

（サロン・あべの

バザー店をお手伝いして

角方鈴子

三十四度、暑い。時計針は、一時を差し
ている。早く行かなければ、遅れては大変
だ。やっぱり遅れている。皆さん申し訳け
ございません。「力」と「大声」だけが私
のとリエなのに。

品物を並べていると、もうお客さんが…
「三時からです」
と言いながらも、しっかりとさばいていく。

こんなに沢山の品物、よく集ったなあ
と感心する。さすが、サロン・あべのの皆
さん方。日頃の心がけが良いからだろうと、
納得。

販売の合間をみて、隣りのあべのポラン
ティア・ビューロー主催の車イス体験コー

い近いの違いはあるが、サロン店から各々の
家庭へ移り、その家族と共に過ごしていく。
物言わぬ品物であるが「ありがとうございます
す」といただき、「ありがとうございます」
と買っていた温かい人の心は、いつま
でもそこに残っているのではないかと想う。

サーに参加した。行きは車イス介助にまわ
る。カーニバル会場を出て行くと段差の多
いのにはビックリ。日頃なげなく歩いてい
た道なのに、気がつかなかった。帰りは、
私が車イスに乗ってみる。乗るなんて書い
ては、失礼な事かもしれませんが、最初は
軽い気持ちで乗ったのです。でも、車イスに
すわったとたん、目線が低くなる。なんだ
か汚れた空気を吸っているみたい。公衆電
話ボックスが目につく。高い所にある。車
イスのまま電話できない。もし必要な時に
は低い所にある電話を捜さなければならな
い。数分の体験だったが、心の奥に何か残
るものがあった。

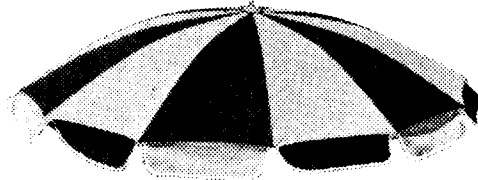
あべのカーニバルを 終つて

たった半日のことで終るあべのカーニバルですが、参加するものにとっては長い時間を感じます。あべのカーニバル参加はサロン・あべのにとつて、大行事と言つても過言ではないからでしょう。そのしんどさを知つて下さる皆様からは、早い時期からサロン・あべのの為にバザー用の品をお送り下さったり、品物収集日には留守にしているからとご近所に預けて下さったり、毎年のごだから品物がありなると言いながらも、ご近所や知り合いの方に声を掛けて下さったり、いつもの用意をしているからと待つて下さったり、時間がなくてと多忙な中を直接届けて下さったり、本紙やアベノタウン紙を見て連絡を入れて下さったり、当日会場へ持参下さったり、等々多くの方々のご支援を得て、サロンのバザー店は、今年も品数豊富な立派な店を開くことが出来ました。又、前日の値付けや当日の積み込み、設営、販売等々にさいしましては、文の里手話グループの有志の方々や

サロンを応援して下さい下さる方々のお手伝いをい ただきました。そして、搬出搬入に関しましては阿倍野区肢体障害者協会カークラブや、あべのボランティア・ビュローの方々のお世話になりました。この他にも多くの皆様の

温かいご支援、ご協力をいただきまして、昨年を超える売り上げと、おもいがけない出会 い・ふれあいを体験させていただきました。ありがとうございます。

サロン・あべの運営委員一同

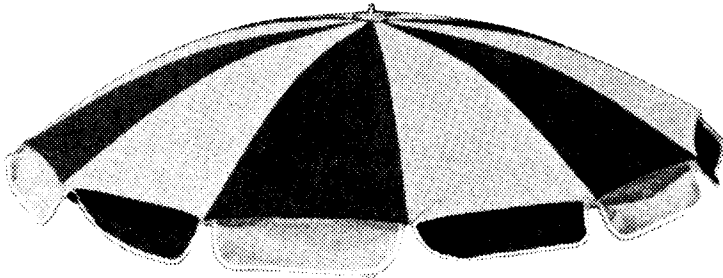


感謝

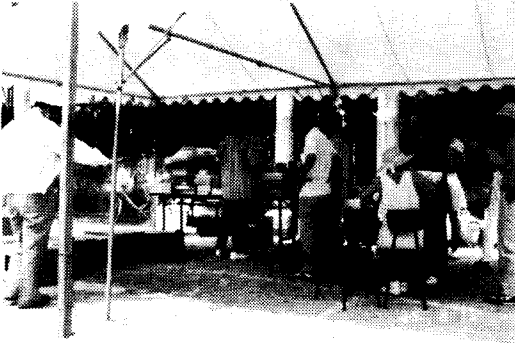
○サロン・あべのバザー店にご協力下さった皆様、ありがとうございました。

赤松憲二、旭純子、安達尚子、石田律・元、石田花子、伊勢村和子、井上憲一、井上信吾、上平幸雄、馬越郁栄、大塚一枝、岡知史、小川哲、岡崎美智枝、岡崎幸子、角方鈴子、金岡千恵子、金子花江、河合恵子、北井シゲコ、北原美喜、斉藤啓子、斉藤孝文、阪口悦子、坂本寛、皿谷千秋、鹿野敬一、塩井澄子、大丸昭典、高尾澄男、竹下秀樹、竹中千代、田中マサエ、田中真知子、田中美智子、辻本輝子、津村孝子、出口正敏、富田慶子・十一、中川喜美子、中西利香、中野君江、中原友喜、西川妙子、長谷川マキエ、原田仁、平野祥子、毎川雅子、町野旬子、松島春子、松田峰子、松森美智子、丸山寿美子、水戸春子、柳生幸子、倭満也子、山本篤江、山本敏子、吉田毅、吉田のり子、若林勝雄、匿名五名。

(敬称略)



あべのカーニバル



コップはどこへ並べるん



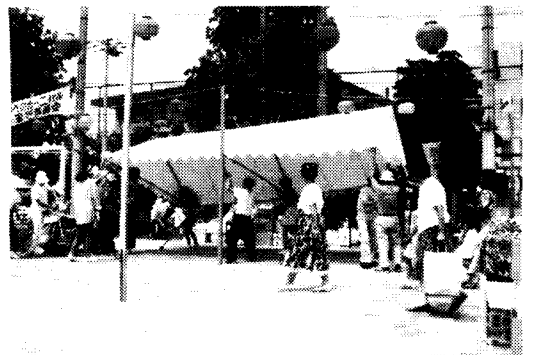
ベルトなんぼやったら売れる



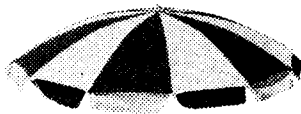
テントの支柱はどれや



これ なんぼ



今年もよう売れて...おおきに



「かくにばる余閑」

お手伝いいただいた人達にはゆっくりと、他の店を見て周ることも、舞台を見ることも出来なくて申しわけなかったが、魚のつかみどり、特産物コーナー、植木市等々なんでも市どおり意外にも見る所、買い物出来る所が多かった。又、舞台も地元の高校や団体の演技や演奏が上演されていた。そして、今年初めて参加されたあべのポランティア・ピュローは、大型テレビを備えてつけてポランテ

シア活動のビデオを放映されたり、体験コーナーでは車椅子に乗っての、オリエンテeringをされたりと、あべのカーニバルでは一味違ったコーナーを持たれていた。明るい広場をのぞきこむように花博の花ずきんちゃんがゆらいている。夜風が心地よく搬出を待つ荷物の間を吹きぬけていく。今年あべのカーニバルも終わったと夜空を見上げて深呼吸をすると月が笑っていた。



なんか こうて帰ってや



おじょうさん お買得ですよ



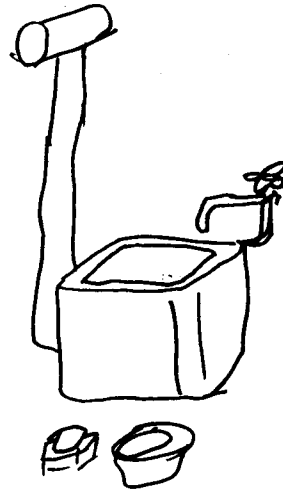
タオル安いやん こおうとくわ



コンニチは

写真 上平幸雄

お湯まわり



毎日お風呂

上平 幸雄

お風呂に関しては、今のところ特に不自由を感じてはいません。ただ、湯舟の位置が少し高いので、短い足を上げるのが、しんどいくらいです。

今はまだ暑いので、お風呂には毎日入

ります。夕飯のあと、いつも子供と一緒に入ります。子供が生まれて以来、ずっとぼくが入れています。初めのうちは恐る恐るでしたが、一才五ヶ月になった今は、湯舟の中でも足が立つようになり、本当に楽になりました。お風呂が好きで「お風呂に行くよ」と言うので来ます。

ぼくが子供のころは、銭湯だったこともあって、あまりお風呂には行きませんでした。それにお風呂があまり好きではありませんでした。内風呂になって、毎日入るうちに、だんだんとお風呂が好きになったようです。

シャワーだけだとか、月に一回だけしか入れない人もいます。今は当然のように、毎日お風呂に入っている自分は、恵まれているのでしょうか。



お風呂物語

山本 篤江

毎日の生活にかかせないのが、①にトイレ、②にお風呂、③に食事です。

お風呂はトイレよりあまり切実ではない

と思われがちですが、そうは問屋がよろしませんが。一日、二日だったら我慢もできましようが・・・

お風呂は一日の締めくくり、一日の疲れを取ってくれるものと一般に言われていますが、私達にとっては、一日の疲れが反対に出てくる場所と言ってもいいすぎではないと思います。と言うのは、全身の力を使い切ってしまうからです。そして、ある人は、湯船に入らないので、逆に体が冷えてしまい、また、ある人は、全身の力を使うので汗びっしょりになってしまうのです。

時間的にも早い人で四〇分〜一時間もかかってしまいます。そして、もっとシビヤに言わせていただくと生命がけなのです。いっつお風呂の中でころんで怪我をするか、いっつ湯船にはまり込むか分からないのです。

私自身もう随分昔になりますが、湯船に入る時に手が滑り濡れかかった経験があります。それから、気を付けてはいるものの生命がけだなくとも思っています。傷も普通の時の傷とはちがいが皮膚が、柔らかくなっているのが血の量が増えたり傷口がおおきくなったりします。

お風呂から出てくると一日が終わったような気がします。



いーい湯だな

富田 慶子

日本人は、昔からお風呂好きの国民と言われている。産湯から最後の湯灌までさまざまな湯浴みをしながら時を過ごす。今は温泉ブームと言われて、秘境の湯や遊び心を満載した温泉地が紹介されたりもしている。が、その中でどれだけの身体障害者が心ゆくまで享受しているか。

障害者関係の旅行では、その向き用の設備がされている温泉宿泊所に泊るが、一般的な身体障害者用で、個々の条件にピタリと合うものはない。旅先のことでもあり、勝手の違う場所での行動は危険を伴なうので一応見学はしても入浴まで心が動かないものであるが、この春、久しぶりに肩までたっぶりつかった経験をした。設備が障害者に合ったからではなく、周囲の人達の温かいご支援でウムを言う間もなく、気が付いたらお湯の中であった。設備、環境等々言えばきりが無いが、一番ありがたいのは、



人の心だどつくづく思った。これは、温泉旅行だけのことでなく日常の生活の中でも感じられることだが、お互いの思いがピタリと一致して何かが成ったときの充実感はいつまでも忘れられない。

我が家のお風呂は ユニットバス

南光 仁子

今の家を借りる時、お風呂の設置とトイレの改造を条件に大家さんにお願ひしたところ快く承諾していただき入居しました。

古い長屋で、台所等は狭くて車椅子では動きづらい面もありますが、玄関は広く電動車椅子を入れて計三台の車椅子が置けるので助かっています。トイレは、昔の和式で男女別々のところを一つの洋式に改造したので、車椅子で入れる広さになりました。そして、お風呂は、裏庭を板の間にしてそこへホクサンのユニットバスを設置しました。狭い場所ですので、ドアを取りはずしカーテンを付けました。浴室には、入り口の高さに合せてスノコを敷いています。洗い場の両側には、特別に手摺を付けて浴

槽へ入りやすくしていますので、主人は一人でお風呂を使えますが、私には浴槽が高すぎて入れません。もっぱらシャワーを使用しています。冬場などカーテンだけでは、寒さを感じますが、他は機密性が高くシャワーだけでも暖まります。

介助人がいる時、湯船に入ったことがあるのですが、浴槽が狭くて出る時足がつかえて怖い思いをしました。それに介助してもらっても狭い場所なので動きがとりにく

いので、めったに入りません。でも、車椅子住宅の風呂場のように広いと、身体を支えられなくて溺れてしまうかもしれません。狭い方がキンチョウして身体のバランスを崩したときでも、身体の安定を保って安心です。スノコの上にシートを敷くことを考えましたが、滑りやすいので止めました。洗髪は、ショートカットにしていますのでシャワーで簡単に出来ます。浴用道具としては、ブラシとか浴用タオルとか一般の物を使っています。私のお風呂としては、もう少し工夫したいところですが、切ったり足したり出来ないユニットバスですので、ぜいたくはいえませんが、今は狭いながらも楽しいお風呂タイムを持っています。(談)



ろうあ運動の現況

五・今後の課題（3）

今回は通訳運動との関係における課題について考えてみたい。

まず、手話学習者の姿勢について、学習者がろうあ者と共に、その生活、文化の向上を目指し、獲得した手話でろうあ者の生活拡大と自立に反映できるように、心構えを培うための援助をどう行うか？

第二に団体の関係課題としてあげられるのは、全国レベルでは財団法人全日本聾啞連盟（全日聾連）と全国手話通訳問題研究会との連携、地方ではろうあ協会とサークルとの連携強化を図

り、独自の活動を生かしつつ、総合的視点からのろうあ運動の活性化を図ること。

第三に、ろうあ運動と通訳運動の共通課題である制度化の早期実現を求めること。

第四に、標準手話・専門的手話の開発と普及を行うと共に、伝統的手話の温存にも努め、ろうあ者主体の研究開発を推進する。

第五に、ろうあ者のニーズ・生活権保障の必要性を一般市民に啓蒙することにより、コミュニティを基盤とした市民運動への拡大を図ること。全日聾連は手話通訳についての当面の方針として、通訳運動は理念的には聴覚障害者の願い、要求に沿うための努力の総和であるから、ろうあ者の立場として、全ての手話学習者、通訳者が、聴覚障害者の生活と権利を守るという立場が貫かれるよう、援助・協力し、必要時には批判していくことが重要であると述べている。これは通訳運動とろうあ運動の関係を端的に言い表しており、この関係の維持・発展は、通訳運動とろうあ運動との共通課題であるといえよう。

なんとか
してやるな

中野 君 江

複 写 紙

私は、文字には自信があったのに年々握力低下のため三枚複写に困っています。

先日も百貨店で配送伝票を書かされ、字はどうでも力一杯書いて出したのに、三枚目が薄く見えにくいとの事。

二枚複写で三枚目の紙質が薄ければ、よくうつるのに口惜しくてならない。代筆をたのんでも、たてこんでいるから・・・
あアア なんとかしてエーなア

サロン・あべの第四回

なんでも市バザー店売り上げ

金一〇九、三四〇円也

ご協力 ありがとうございます。

サロン・あべの 会計

まなむすび(なむ) (8)

原田 仁

第七話

夢

こんど給料をもらったたら寿司を食おうと思う。思い始めたら「どこの寿司屋に行こうかなあ」から始まって「なにをどんな順番で食おうか」まで考える。そんなことばっかり考えててちつとも働かないから、結局はくるくる寿司かなんかに行く人がいます。(私ではありません)

そうかと思うと働いてばかりいて「グランチエ・グランチエ」とか言いながらカップラーメンを食い続けている人もいます。(私ではありません)

例えば悪すぎましたが、つまり、まちづくりには「大きな夢を持つ」とこと「地道な努力」の両方が必要だということですが。

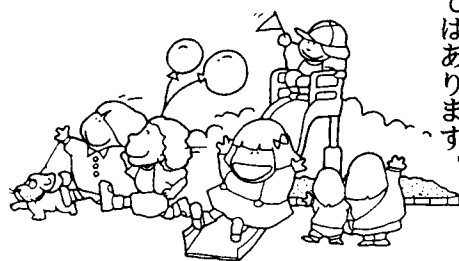
「夢」をつくってみましょうか。

まず、イメージ。「どんな暮らしをしたいのか」というイメージをふくらませます。

そのためには「どんなものが必要なのか」。ものをつくるためには「誰が何をすればいいのか」。誰かが何かをしようと思うように「どうやって盛り上げていけば良いか」。

それがうまくいくために「どんなしくみやルールがあるのか」。それから忘れてはいけないのは、それを「より魅力的に、そして特徴のあるものにするにはどうしたらいいのか」。

夢はつまりではまちはできません。でも、夢のないまちづくりは続かないでしょう。今は人に笑われるような夢をみている私はオメデタイ人ではありません。



おしらせ

サロン・あべの十月の出会い

日時 平成元年十月二日(土)

午前十一時～三時

場所 長居植物園内自然史博物館見学

会費 一人1130円(昼食代)

集合 時間1同日11時

場所1長居植物園正面入口前

申し込み 十月一九日(木)までに。

問い合わせ

電話10616911028

(富田慶子)

<サロン・あべの>第39号

発行日 平成元年 9月16日(土)

発行・編集<サロン・あべの>運営委員会

[大阪市阿倍野区阪南町6-3-26

電話(06)691-1028富田慶子]

印刷 セルフ社 電話(06)691-2365

[阿倍野区西田辺2-2-10

グレース鶴ヶ丘101号]

定価 ¥62.